

乳がん住民検診における「高濃度乳房」への対応のポイント

平成30年2月7日

厚生労働科学研究費補助金「乳がん検診における乳房の構成
(高濃度乳房を含む)の適切な情報提供に資する研究」班

- ① マンモグラフィで乳房の構成が高濃度乳房と判定された人においては、乳腺の陰に病変が隠れてがんが発見されにくい傾向にある。
- ② 市町村における乳がん検診の受診者に対する乳房の構成の通知のあり方に、一定の見解がない。
- ③ 乳房の構成が高濃度乳房と判定された人に対して、推奨できる有効な検査法はない。
- ④ 受診者が乳房の構成を知ることによって、がんに対する意識が高まる等の利益(メリット)があると考えられる。一方、乳房の構成についての正しい理解がなければ、がん検診の受診者が不要な検査を追加で受ける等の不利益(デメリット)が生じる。
- ⑤ 乳がん検診関連3団体(日本乳癌検診学会、日本乳癌学会、日本乳がん検診精度管理中央機構)は、現時点で、全国の市町村で一律に乳房の構成に関する通知を行うことは時期尚早である、と提言している。
- ⑥ 市町村・検診実施機関等が、乳がん検診や乳房の構成等について正しく理解した上で、市町村の判断で、がん検診の受診者に対し乳房の構成に関する情報を伝える場合には、正しく情報提供を行うことが必要である。